

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H00528

研究課題名（和文）小児がんにおける遺伝学的高発がん感受性の機序とクローン進化の統合的解析

研究課題名（英文）Integrated analysis of mechanisms of genetic susceptibility to cancer and clonal evolution in pediatric cancer

研究代表者

滝田 順子（Takita, Junko）

京都大学・医学研究科・教授

研究者番号：00359621

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 35,100,000円

研究成果の概要（和文）：難治性小児がんを対象に多層的オミクス解析を展開し、以下の成果をあげた。DNAメチル化プロファイルの特性により肝芽腫は病理像と臨床情報と関連する3群に分類されることを見出し、このうち予後不良群においてNQO1とODC1が治療標的となりうることを示した。また神経芽腫のDNAメチル化情報と遺伝子発現情報をもとに、新規に11q欠失群に極めて予後不良な超高リスク群を同定した。この群において、セリンの代謝を促進するPHGDHが治療標的となりうることを示した。さらにKMT2A再構成陽性乳児急性リンパ性白血病において、ゲノム・エピゲノム統合クラスタリングにより、予後不良なサブタイプを同定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小児がんは一般的に遺伝子変異が少ないことから、臨床的多様性を規定する分子病態が十分に解明されていなかった。本研究によって、肝芽腫、神経芽腫および乳児白血病の臨床的多様性にDNAメチル化プロファイルが関与していることが明らかとなったことで、小児がんの臨床的多様性の分子病態の理解が一段と深まった。また本成果は、DNAメチル化プロファイルを基盤としたより精度の高いリスク分類の提案に寄与し、さらに各々の予後不良群において治療標的を同定したことから、肝芽腫、神経芽腫および乳児白血病の治療成績の向上にも貢献するものと期待される。

研究成果の概要（英文）：To get a better understanding of molecular basis of intractable pediatric cancers, we performed a multilayered omics analysis of pediatric cancers, including hepatoblastoma, neuroblastoma, and infantile acute leukemia. Based on the DNA methylation profile, we found that hepatoblastoma can be classified into three subgroups that were well associated with pathological and clinical information. Among them, NQO1 and ODC1 are potential therapeutic targets in the poor-prognosis methylation subgroup. Furthermore, according to the DNA methylation and gene expression patterns, we also identified a new ultra-high-risk subgroup with a very poor prognosis in the neuroblastoma patients with 11q deletion. In this subgroup, PHGDH, which promotes serine metabolism, was shown to be a potential therapeutic target. Finally, we discovered a poor prognosis subtype of KMT2A rearrangement-positive infantile acute lymphoblastic leukemia by integrated genomic and epigenomic clustering analysis.

研究分野：小児医学

キーワード：小児がん 神経芽腫 肝芽腫 乳児急性リンパ性白血病 多層的オミクス解析 治療標的

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

小児がんは、一般的に後天的に獲得した体細胞変異の蓄積が少ないことから、その発症には遺伝的な発がん感受性が深く関与していると推測される。しかし、発がん感受性のみでは、ほとんど全てのがん種がもつ多様性は説明できず、難治化や再発の機序は、なお多くが不明である。発がん初期のクローン選択の過程にエピジェネティックな変化や獲得変異が加わって、がん細胞集団に高度な多様性が生じ、進展、転移、再発が惹起されるものと考えられる。従って、遺伝学的高感受性を起点とした複雑なクローン進化の全貌を解明することが、有効性の高い新規治療法の開発に有用と考えられる。しかしその希少性から、小児がんにおける体系的な検討は立ち遅れているのが現状である。そこで本研究では、小児の難治性腫瘍を対象に多層的オミクス解析技術を駆使して、分子病態に立脚した本質的かつ有効性の高い新規克服法の開発と最適化医療の実現を目指す。

2. 研究の目的

本研究の目的は、難治性小児がんにおける遺伝学的高感受性を起点としたクローン進化の全体像を明らかにして、分子病態に立脚した本質的かつ副作用をできるだけ回避した有効性の高い新規克服法を開発することである。本研究では、急性白血病、神経芽腫、肝腫瘍といった難治性小児がんを対象に多層的オミクス解析を展開し、小児難治がんにおける遺伝的高感受性を起点としたクローン進化の解明と新規治療標的の同定を目指す。

3. 研究の方法

(1)ゲノム・エピゲノム解析

再発、非寛解検体を幅広く網羅するために自施設および関連施設で保管している検体も用いる。また検証のために TARGET、DDBJ などの公開データも用いる。申請者らのグループは、パラフィン切片 (FFPE) から DNA、RNA、microRNA を抽出し、一連のオミクス解析を行う系を確立しているため、FFPE 検体しか収集できない神経芽腫検体においても解析を進める。全ゲノム解析においては、Novaseq6000 を使用し、Parabricks (v3.5.0)、InterVar でマッピングとアノテーションを行う。近年、疾患との関連が明らかとなった Deep intron の変異解析には SpliceAI を用いる。日本小児がん研究グループ (JCCG) で行われている固形腫瘍観察研究および日本白血病リンパ腫研究グループ (JPLSG) に登録されている正常検体のリソースを用いて、リファレンスとしては、日本国内のデータバンク (東北メディカルメガバンク機構など) のデータを使って解析を行う。解析予定症例数は、神経芽腫 200 例、造血器腫瘍 100 例とする。また適宜、Epic メチル化アレイを用いて DNA メチル化解析も行い、当該遺伝子の造腫瘍性に関して、情報を収集する。さらにヒストン H3K9、H3K14 のアセチル化/メチル化抗体を用いた ChiP シークエンスおよび ATAC シークエンスを行い、候補ゲノム異常の発現系に及ぼす影響について検討する。

(2)非翻訳領域のゲノム異常と発がんとの関連性の解明

プロモーター領域とエンハンサー領域および 21,000 遺伝子のコーディング領域約 114Mb の領域のバイトを用いて、各腫瘍のキャプチャーシーケンスを行う。これにより regulatory elements 約 60Mb のキャプチャーが可能である。異常が見いだされた領域に関しては、検証コホート (約 600 例) で頻度の検証を行う。解析予定検体としては、神経芽腫 30-50 検体、造血器腫瘍 30 検体、肝腫瘍 10 検体とする。また TCGA に登録されている小児がんの全ゲノムシーケンスデータを用いたイントロジェニックなゲノムの構造異常の検討も行う。同時にトランスクリプトーム、メチ

ロームデータも解析する。

(3)がんのメタローム解析

神経芽腫細胞株に対する代謝解析を行う。具体的には、抗がん剤・代謝拮抗剤・放射線照射・siRNA や shRNA による遺伝子発現抑制・過剰発現などの介入手技を加えた腫瘍細胞株と、対照となる介入手技を加えていない腫瘍細胞株を用意し、それらの培養培地溶媒および細胞からの抽出液に対して、キャピラリー電気泳動と質量分析法を組み合わせた手法(CE-MS 法)によるメタローム解析を行う。既知の細胞代謝関連遺伝子である MYC, MYCN, TP53 などの特性の異なる複数の細胞株で検討を行い、細胞の特性や、それぞれの介入手技によりがん細胞の代謝機構がどのように変化するかを検討を行う。対象とする細胞株検体は、神経芽腫細胞株 4 種、PDX マウスに移植した神経芽腫 4 種を予定する。さらに固形腫瘍のみならず白血病細胞においても脂質代謝のながん特有の代謝亢進が悪性度に寄与しているかの検討を行う。

(4)治療標的の有効性の評価

上記(1)-(3)の検討において著明な変化がみられた実験条件に対して、腫瘍細胞に対するトランスクリプトーム解析を行い、介入手技が与える代謝への変動と遺伝子発現の変動を組み合わせた統合解析を行う。抗がん剤などの介入手技により亢進した代謝経路や、増強した遺伝子発現は、治療介入に対してがん細胞が代償的に亢進させている抵抗手段と想定され、阻害することで治療抵抗性の解消をもたらす可能性が高い。このような代償効果をさらに阻害する薬剤のスクリーニングを、腫瘍細胞株を用いた実験により行い、既存の治療との複合効果がみられる薬剤の選択抽出を行う。

4. 研究成果

(1)肝芽腫の DMA メチル化サブグループの同定と治療標的 NQO1 と ODC1 の同定

肝芽腫は小児悪性肝腫瘍の中では最も頻度が高い。限局例は予後良好であるのに対して、遠隔転移を有する例は依然として予後不良である。そこで、肝芽腫の多様な分子病態を明らかにして、有効な治療標的を同定するために、59 例の臨床検体を対象に、多層的オミックス解析を行った(Sekiguchi et al, *npj Precis Oncol.* 2020)。その結果、肝芽腫は DNA メチル化のパターンにより 3 群 (F、

E1、E2) に分類され、それらは病理像と臨床的特徴と関連した(図 1)。F 群は胎児型で予後良好だったのに対し、E1、E2 群は胎芽型/混合型で予後不良であった。E1 群と E2 群は HNF4A/CEBPA 結合領域の高メチル化、高頻度のコピー数増加、細胞周期経路の亢進、そして *NQO1* や *ODC1* の高発現といった特徴を有していた。細胞株を用いた *NQO1* と *ODC1* の阻害実験では、抗がん剤感受性の改善や細胞増殖抑制が認められ、

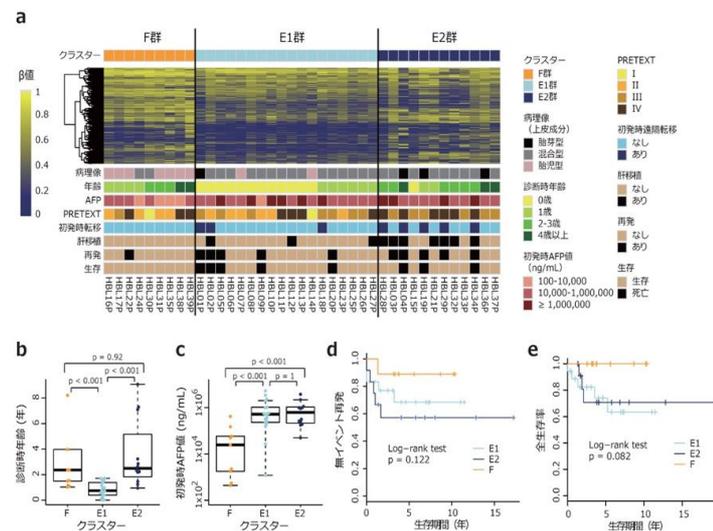


図 1 肝芽腫における DNA メチル化サブグループの同定

いた *NQO1* と *ODC1* の阻害実験では、抗がん剤感受性の改善や細胞増殖抑制が認められ、

これらは高悪性度に寄与し、治療標的になりうることが示された。本研究の成果は、肝芽腫における新たな治療の層別化に寄与し、予後不良群の治療成績の向上に貢献するものと期待される。臨床応用に向けて、別コホートでの検証が有用と考えられる。

(2)神経芽腫における超高リスク群の抽出とセリン代謝を標的とした新規治療法の提案

神経芽腫は小児固形腫瘍の中で脳腫瘍に次いで頻度が高く、再発難治例は依然として極めて予後不良である。これまでの研究により MYCN 増幅、11q の欠失を有する群は予後不良であることが知られている。先行研究において、申請者らは MYCN 増幅群の約 50% の例においての ALK の機構獲得型変異を見出し、これらの群において ALK 阻害剤が有用であることを見出した(Takita et al, *Nature* 2008)。しかし、11q の欠失を有する群において有効な治療標的は同定されていない。そこで神経芽腫の中で特に 11q 欠失を有する群を対象に DNA メチル化解析および遺伝子発現解析を実施し、新規に極めて予後不良な超高リスク群を同定した。この群において、セリンの代謝経路に関わる *PHGDH* の顕著な発現増強がみられたことから、この遺伝子の治療標的としての有用性を検討した。神経芽腫細胞株における *PHGDH* のノックダウン実験により *PHGDH* 高発現細胞株において、有意な細胞増殖抑制がみられた。興味深いことに、この効果はアルギニン合成酵素 ASS1 欠損細胞でより顕著にみられた。マウスモデルを用いて検討したところ、*PHGDH* 阻害剤単独もしくは ASS1 阻害剤との併用により生体内での強い腫瘍増殖抑制効果を確認した。従って、これらの代謝阻害剤は神経芽腫の新規治療薬として有望な候補であることが示された(Watanabe et al, *Oncogene* 2022)。

(3)乳児急性リンパ性白血病における統合的クラスタリング解析と新規予後不良サブグループの同定

乳児期(0歳児)に発症する急性リンパ性白血病(ALL)は、1歳以上の小児 ALL と大きく異なる生物学的・臨床的特徴を有する。生物学的には、乳児 ALL の約 80% に *KMT2A* 融合遺伝子を認め (*KMT2A-r* 乳児 ALL) *KMT2A-r* 乳児 ALL は極めて予後不良であることが知られている。そこで、*KMT2A-r* 乳児 ALL の分子病態を解明し、新規治療標的、予後予測バイオマーカーを同定するために、*KMT2A-r* 乳児 ALL 80 例の診断時の臨床検体を用いて、RNA シークエンスと DNA メチル化アレイ解析、全エクソームシーケンスおよびターゲットキャプチャーシーケンスを含む多層的オミクス解析を行った。データ解析には遺伝子発現情報とメチル化情報を統合して解析する similarity network fusion (SNF) という手法を用いた。SNF は、まずトランスクリプトーム、DNA メチロームという各々のオミクス階層内で患者間の類似性を算出し、それらをメッセージパッシング理論に基づいて反復的に統合していくことで、最終的に 1 つの患者間類似性行列を出力する。その結果、教師なしクラスタリング解析により、*KMT2A-r* 乳児 ALL 内に予後の異なる 5 つのサブタイプを同定した(図 2)。さらに、全エクソームシーケンス、およびターゲットキャプチャーシーケンスを用いた遺伝子変異解析の結果も統合することで、*KMT2A-r* 乳児 ALL の中で、i) *IRX* 転写因子が発現し、ii) 造血細胞としての分化が未熟な発現プロファイルを有し、iii) RAS 経路の重複変異を有する、*IRX* タイプ最未分化型を最も高悪性度のサブタイプとして定義した。本群は、これまでの遺伝子発現解析のみ、DNA メチル化解析のみの研究では同定することができなかった新たなサブタイプであり、今後さらなる精密な治療の層別化に有用となる可能性が示された(Isobe et al, *Nat. Commun* 2022)。

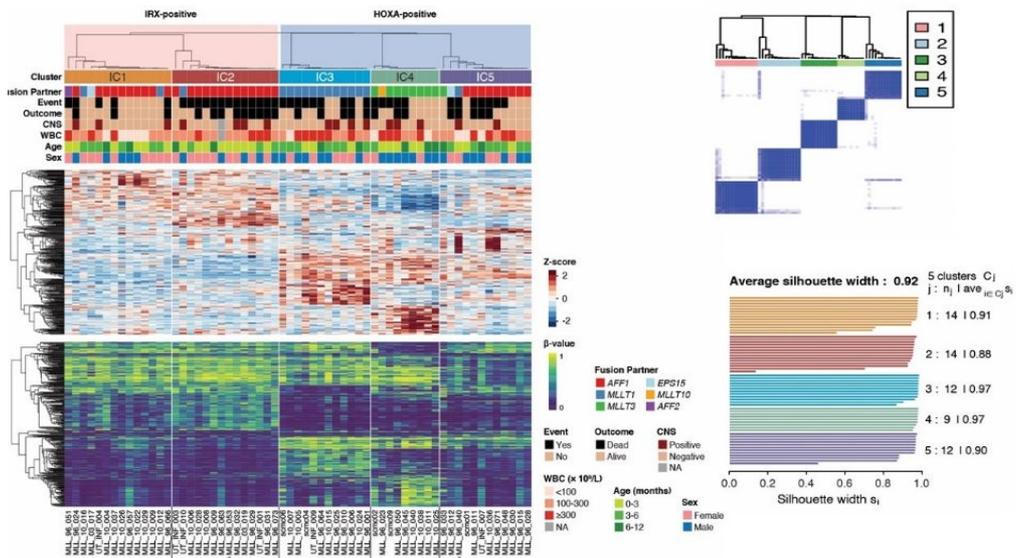


図 2 乳児急性リンパ性白血病における統合的クラスタ

総じて、本研究では当初の計画通り、革新的な治療標的とバイオマーカーを検出し、実用化を見据えた成果を達成することができた。また小児がんの特性と不均一性に見合った治療標的を同定したことは、小児がん領域の個別化医療の実現に多大な貢献をなすものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計77件（うち査読付論文 77件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 42件）

1. 著者名 Akahane K, Kimura S, Miyake K, Watanabe A, Kagami K, Yoshimura K, Shinohara T, Harama D, Kasai S, Goi K, Kawai T, Hata K, Kiyokawa N, Koh K, Imamura T, Horibe K, Look AT, Minegishi M, Sugita K, Takita J, Inukai T	4. 巻 6
2. 論文標題 Association of allele-specific methylation of the ASNS gene with asparaginase sensitivity and prognosis in T-ALL	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Blood Adv	6. 最初と最後の頁 212-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1182/bloodadvances.2021004271.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kouzuki K, Umeda K, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Okamoto T, Ogawa E, Okajima H, Furuta A, Adachi S, Daifu T, Takita J	4. 巻 69
2. 論文標題 Successful right hepatic trisectionectomy following percutaneous transhepatic portal embolization in a pediatric patient with undifferentiated embryonal sarcoma of the liver	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pediatric Blood & Cancer	6. 最初と最後の頁 e29369
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.29369	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umeda K, Taura K, Kato I, Saida S, Hiramatsu H, Shimizu H, Nakamoto Y, Uto M, Mizowaki T, Sakamoto A, Adachi S, Okamoto T, Takita J	4. 巻 44
2. 論文標題 Intensive Multimodal Therapy Combined With Long-term Temozolomide and Etoposide Treatment for Recurrent Osteosarcoma to the Liver and Stomach	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Pediatr Hematol Oncol	6. 最初と最後の頁 175-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MPH.0000000000002412	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamai M, Kasai S, Akahane K, Thu TN, Kagami K, Komatsu C, Abe M, Watanabe A, Goi K, Miyake K, Inaba T, Takita J, Goto H, Minegishi M, Iwamoto S, Sugita K, Inukai T	4. 巻 218
2. 論文標題 Glucocorticoid receptor gene mutations confer glucocorticoid resistance in B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Steroid Biochem Mol Biol	6. 最初と最後の頁 106068
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jsbmb.2022.106068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kudo K, Kubota Y, Toki T, Kanazaki R, Kobayashi A, Sato T, Kamio T, Sasaki S, Shiba N, Tomizawa D, Adachi S, Yoshida K, Ogawa S, Seki M, Takita J, Terui K	4. 巻 6
2. 論文標題 Childhood acute myeloid leukemia with 5q deletion and HNRNP1-MLLT10 fusion: The first case report.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Blood Adv.	6. 最初と最後の頁 6209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1182/bloodadvances.2022008428	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiwatari M, Seki M, Matsuno R, Yoshida K, Nagasawa T, Sato-Otsubo A, Yamamoto S, Kato M, Watanabe K, Sekiguchi M, Miyano S, Ogawa S, Takita J.	4. 巻 41
2. 論文標題 Novel TENM3-ALK fusion is an alternate mechanism for ALK activation in neuroblastoma.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Oncogene	6. 最初と最後の頁 2789-2797
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41388-022-02301-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawabata N, Hiramatsu H, Mikami T, Akazawa R, Tanaka K, Kouzuki K, Kubota H, Saida S, Kato I, Umeda K, Hirate T, Kanda K, Adachi S, Takita J.	4. 巻 69
2. 論文標題 Chimeric antigen receptor T-cell therapy for a patient with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia and leukoencephalopathy who relapsed after bone marrow transplantation.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer	6. 最初と最後の頁 e29734
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.29734	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima K, Kubota H, Kato I, Isobe K, Ueno H, Kozuki K, Tanaka K, Kawabata N, Mikami T, Tamefusa K, Nishiuchi R, Saida S, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J	4. 巻 113
2. 論文標題 PAX5 alterations in an infant case of KMT2A-rearranged leukemia with lineage switch.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Sci	6. 最初と最後の頁 2472-2476
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15380.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fukui S, Umeda K, Kubota H, Iwai A, Akazawa R, Isobe K, Tanaka K, Kouzuki K, Kawabata N, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Itatani Y, Funakoshi T, Adachi S, Takita J	4. 巻 145
2. 論文標題 Use of Cabozantinib to Treat MET-amplified Pediatric Colorectal Cancer.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Pediatr Hematol Oncol.	6. 最初と最後の頁 e423-e426
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MPH.0000000000002482.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oksa L, Mkinen A, Nikkil A, Noora H, Laukkanen S, Rokka A, Haapaniemi P, Seki M, Takita J, Kauko O, Heinniemi M, Lohi O	4. 巻 14
2. 論文標題 Arginine Methyltransferase PRMT7 Deregulates Expression of RUNX1 Target Genes in T-Cell Acute Lymphoblastic Leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancers	6. 最初と最後の頁 2169 ~ 2169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/cancers14092169	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takagi M, Ogawa C, Iehara T, Aoki-Nogami Y, Ishibashi E, Imai M, Kimura T, Nagata M, Yasuhara M, Masutani M, Yoshimura K, Tomizawa D, Ogawa A, Yonemori K, Morishita A, Miyamoto S, Takita J, Kihara T, Nobori K, Hasebe K, Miya F, Ikeda S, Shioda Y, Matsumoto K, Fujimura J, Mizutani S, Morio T, Hosoi H, Koike R	4. 巻 128
2. 論文標題 First phase 1 clinical study of olaparib in pediatric patients with refractory solid tumors.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer	6. 最初と最後の頁 2949-2957
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cncr.34270	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shirai R, Osumi T, Sato-Otsubo A, Nakabayashi K, Ishiwata K, Yamada Y, Yoshida M, Yoshida K, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Tomizawa D, Takasugi N, Takita J, Miyazaki O, Kiyokawa N, Yoneda A, Kanamori Y, Hishiki T, Matsumoto K, Hata K, Yoshioka T, Kato M.	4. 巻 61
2. 論文標題 Quantitative assessment of copy number alterations by liquid biopsy for neuroblastoma	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Genes Chromosomes Cancer	6. 最初と最後の頁 662-669
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gcc.23073	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita H, Arakawa Y, Terada Y, Takeuchi Y, Mineharu Y, Sumiyoshi S, Tokunaga S, Nakajima K, Kawabata N, Tanaka K, Tanji M, Umeda K, Minamiguchi S, Ogawa S, Haga H, Takita J, Miyamoto S	4. 巻 39
2. 論文標題 Whole-genome sequencing analysis of an atypical teratoid/rhabdoid tumor in a patient with Phelan-McDermid syndrome: a case report and systematic review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Brain Tumor Pathol	6. 最初と最後の頁 232-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10014-022-00440-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mayumi A, Tomii T, Kanayama T, Mikami T, Tanaka K, Ueno H, Yoshida H, Kato I, Kawamura M, Nakahata T, Takita J, Hosoi H, Imamura T	4. 巻 29
2. 論文標題 The combination of ruxolitinib and Bcl-2/Mcl-1 inhibitors has a synergistic effect on leukemic cells carrying a SPAG9: JAK2 fusion	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Gene Ther	6. 最初と最後の頁 1930-1938
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41417-022-00511-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umeda K, Sakamoto A, Noguchi T, Uchihara Y, Kobushi H, Akazawa R, Ogata H, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Uto M, Mizowaki T, Haga H, Date H, Okamoto T, Watanabe K, Adachi S, Toguchida J, Matsuda S, Takita J	4. 巻 45
2. 論文標題 Clinical Outcomes of Patients with Osteosarcoma Experiencing Relapse or Progression: A Single-institute Experience	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J Pediatr Hematol Oncol	6. 最初と最後の頁 e356-e362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MPH.0000000000002521	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Isobe T, Takagi M, Sato-Otsubo A, Nishimura A, Nagae G, ...Morio T, Eguchi M, Deguchi T, Kiyokawa N, Arakawa Y, Koh K, Aoki Y, Ishihara T, Tomizawa D, Miyamura T, Ishii E, Mizutani S, Wilson NK, Gattgens B, Miyano S, Kitamura T, Goyama S, Yokoyama A, Aburatani H, Ogawa S, Takita J	4. 巻 13
2. 論文標題 Multi-omics analysis defines highly refractory RAS burdened immature subgroup of infant acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nat Commun	6. 最初と最後の頁 4501
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-022-32266-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshino Y, Goto H, Ito M, Tsurusaki Y, Takita J, Hayashi Y, Yanagimachi M	4. 巻 39
2. 論文標題 YM155 and chrysin cooperatively suppress survivin expression in SMARCB1/INI1-deficient tumor cells	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Med Oncol	6. 最初と最後の頁 234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12032-022-01843-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uchihara Y, Kato I, Hanaki R, Saida S, Iwamoto S, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J	4. 巻 45
2. 論文標題 Autologous Recovery With Chromosomal Abnormalities After Unrelated Umbilical Cord Blood Transplantation With Myeloablative Conditioning in a Case of Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Pediatr Hematol Oncol	6. 最初と最後の頁 e142-e144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MPH.0000000000002571	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kubota Y, Sekiguchi M, Sato-Otsubo A, Hiwatari M, Kato M, Oka A, Koh K, Sato Y, Tanaka H, Miyano S, Kawai T, Hata K, Ueno H, Nannya Y, Suzuki H, Yoshida K, Fujii Y, Nagae G, Aburatani H, Ogawa S, Takita J	4. 巻 41
2. 論文標題 Identification of the ultrahigh-risk subgroup in neuroblastoma cases through DNA methylation analysis and its treatment exploiting cancer metabolism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Oncogene	6. 最初と最後の頁 4994-5007
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41388-022-02489-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Irie M, Niihori T, Nakano T, Suzuki T, Katayama S, Moriya K, Niizuma H, Suzuki N, Saito-Nanjo Y, Onuma M, Rikiishi T, Sato A, Hangai M, Hiwatari M, Ikeda J, Tanoshima R, Shiba N, Yuza Y, Yamamoto N, Hashii Y, Kato M, Takita J, Maeda M, Aoki Y, Imaizumi M, Sasahara Y	4. 巻 117
2. 論文標題 Reduced-intensity conditioning is effective for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in infants with MECOM-associated syndrome	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Int J Hematol	6. 最初と最後の頁 598-606
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-022-03505-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mikami M, Masuda T, Kanatani T, Noura M, Umeda K, Hiramatsu H, Kubota H, Daifu T, Iwai A, Hattori EY, Furuichi K, Takasaki S, Tanaka S, Matsui Y, Matsuo H, Hirata M, Kataoka TR, Nakahata T, Kuwahara Y, Iehara T, Hosoi H, Imai Y, Takita J, Sugiyama H, Adachi S, Kamikubo Y	4. 巻 45
2. 論文標題 RUNX1-Survivin Axis Is a Novel Therapeutic Target for Malignant Rhabdoid Tumors	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Mol Cells	6. 最初と最後の頁 886-895
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14348/molcells.2022.2031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tasaka K, Kato I, Takeshita S, Yoshioka Y, Usami A, Uchihara Y, Akazawa R, Kamitori T, Saida S, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J	4. 巻 70
2. 論文標題 Second relapse of FLT3-ITD-positive acute myeloid leukemia after discontinuation of 3-year post-transplant maintenance therapy with gilteritinib	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer	6. 最初と最後の頁 e30185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.30185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Torizuka D, Uto M, Umeda K, Kamitori T, Iwai A, Saida S, Kato I, Mineharu Y, Arakawa Y, Takita J, Mizowaki T	4. 巻 S0360-3016
2. 論文標題 A Scalp Dose Threshold for Preventing Permanent Alopecia in Scalp-Avoidance Whole-Brain Irradiation With Volumetric Modulated Arc Radiation Therapy for Pediatric Patients With Medulloblastomas	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Int J Radiat Oncol Biol Phys	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijrobp.2023.01.027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Odaira K, Yasuda T, Okada K, Shimooka T, Kojima Y, Noura M, Tamura S, Kurahashi S, Iwamoto E, Sanada M, Matsumura I, Miyazaki Y, Kojima T, Kiyoi H, Tsuzuki S, Hayakawa F.	4. 巻 114
2. 論文標題 Functional inhibition of MEF2 by C/EBP is a possible mechanism of leukemia development by CEBP-IGH fusion gene.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Sci.	6. 最初と最後の頁 781-792
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15641	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makishima H, Saiki R, Nannya Y, Korotev SC, , Yoshizato T, Atsuta Y, Shiozawa Y, Iijima-Yamashita Y, Yoshida K, Shiraishi Y, Nagata Y, Kakiuchi N, Onizuka M, Chiba K, Tanaka H, Yoda A, Itonaga H, Miyazaki Y, Sanada M, Kulasekararaj AG, Godley LA, Maciejewski JP, Ogawa S.	4. 巻 141
2. 論文標題 Germline DDX41 mutations define a unique subtype of myeloid neoplasms.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Blood.	6. 最初と最後の頁 534-549
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1182/blood.2022018221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohki K, Butler ER, Kiyokawa N, Hirabayashi S, Bergmann AK, Mřcaricke A, Boer JM, Cavřka H, Cazzaniga G, Yeoh AEJ, Sanada M, Imamura T, Inaba H, Mullighan CG, Loh ML, Norřkan-Nystrřkam U, Shih LY, Zaliova M, Pui CH, Haas OA, Harrison CJ, Moorman AV, Manabe A.	4. 巻 37
2. 論文標題 Clinical characteristics and outcomes of B-cell precursor ALL with MEF2D rearrangements: a retrospective study by the Ponte di Legno Childhood ALL Working Group.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Leukemia.	6. 最初と最後の頁 212-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-022-01737-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuda T, Sanada M, Tsuzuki S, Hayakawa F.	4. 巻 114
2. 論文標題 Oncogenic lesions and molecular subtypes in adults with B-cell acute lymphoblastic leukemia.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Sci.	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15583	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato H, Maezawa Y, Nishijima D, Iwamoto E, Takeda J, Kanamori T, Yamaga M, Mishina T, Takeda Y, Izumi S, Hino Y, Nishi H, Ishiko J, Takeuchi M, Kaneko H, Koshizaka M, Mimura N, Kuzuya M, Sakaida E, Takemoto M, Shiraishi Y, Miyano S, Ogawa S, Iwama A, Sanada M, Yokote K.	4. 巻 109
2. 論文標題 Exp Hematol.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Exp Hematol.	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.exphem.2022.02.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishida H, Kato M, Kawahara Y, Ishimaru S, Najima Y, Kako S, Hiwatari M, Saito S, Takahashi Y, Sato A, Tanaka J, Hashii Y, Atsuta Y, Sakaguchi H, Imamura T	4. 巻 40
2. 論文標題 Prognostic factors of children and adolescents with T cell acute lymphoblastic leukemia after allogeneic transplantation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hematological Oncology	6. 最初と最後の頁 457 ~ 468
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hon.2980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Geier C B., Ellison M, Cruz R, Pawar S, Leiss-Piller A, Hiwatari M, Beaussant-Cohen SL., Ong MS, Shcherbina A, Walter JE.	4. 巻 42
2. 論文標題 Disease Progression of WHIM Syndrome in an International Cohort of 66 Pediatric and Adult Patients	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Immunology	6. 最初と最後の頁 1748 ~ 1765
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10875-022-01312-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shirai R, Osumi T, Keino D, Nakabayashi K, Uchiyama T, Sekiguchi M, Hiwatar M, Yoshida M, Yoshida K, Yamada Y, Tomizawa D, Takae S, Kiyokawa N, Matsumoto K, Yoshioka T, Hata K, Hori T, Suzuki N, Kato M	4. 巻 -
2. 論文標題 Minimal residual disease detection by mutation-specific droplet digital PCR for leukemia/lymphoma	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Hematology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-023-03566-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshino Y, Goto H, Ito M, Tsurusaki Y, Takita J, Hayashi Y, Yanagimachi M	4. 巻 39
2. 論文標題 YM155 and chrysin cooperatively suppress survivin expression in SMARCB1/INI1-deficient tumor cells	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Medical Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12032-022-01843-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuzuki S, Yasuda T, Goto H, Maeda N, Akahane K, Inukai T, Yamamoto H, Karnan S, Ota A, Hyodo T, Konishi H, Hosokawa Y, Kiyoi H, Hayakawa F	4. 巻 108
2. 論文標題 BCL6 inhibition ameliorates resistance to ruxolitinib in CRLF2-rearranged acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Haematologica	6. 最初と最後の頁 394 ~ 408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3324/haematol.2022.280879	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka K, Kato I, Dobashi Y, Imai JI, Mikami T, Kubota H, Ueno H, Ito M, Ogawa S, Nakahata T, Takita J, Toyoda H, Ogawa C, Adachi S, Watanabe S, Goto H.	4. 巻 113
2. 論文標題 The first Japanese biobank of patient-derived pediatric acute lymphoblastic leukemia xenograft models.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Sci.	6. 最初と最後の頁 3814-3825
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15506.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rasmussen SV., Jin J, Bickford LR., Goto H, Torres KE., Sidoni A, Rudzinski ER., Thway K, Jones RL., Ciulli A, Wright H, Lathara M, Srinivasa G, Kannan K, Huang PH., Grnewald TG. P., Berlow NE., Keller C	4. 巻 12
2. 論文標題 Functional genomic analysis of epithelioid sarcoma reveals distinct proximal and distal subtype biology	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clinical and Translational Medicine	6. 最初と最後の頁 e961
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ctm2.961	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Higuchi T, Izawa K, Miyamoto T, Honda Y, Nishiyama A, Shimizu M, Takita J, Yasumi T	4. 巻 Online ahead of print.
2. 論文標題 An efficient diagnosis: A patient with X-linked inhibitor of apoptosis protein (XIAP) deficiency in the setting of infantile hemophagocytic lymphohistiocytosis was diagnosed using high serum interleukin-18 combined with common laboratory parameters	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.29606	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Imayoshi N, Yoshioka M, Tanaka K, Shyh-Ming Yang, Akahane K, Toda Y, Hosogi S, Inukai T, Okada S, David J Maloney, Nakahata T, Takita J, Kato I, Ashihara E	4. 巻 590
2. 論文標題 CN470 is a BET/CBP/p300 multi-bromodomain inhibitor and has an anti-tumor activity against MLL-rearranged acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biochem Biophys Res Commun	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2021.12.078.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tasaka K, Ueno H, Yamasaki K, Okuno T, Isobe T, Kimura S, Umeda K, Hara J, Ogawa S, Takita J	4. 巻 113
2. 論文標題 Oncogenic FGFR1 mutation and amplification in common cellular origin in a composite tumor with neuroblastoma and pheochromocytoma. 2021, Online ahead of print.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Sci	6. 最初と最後の頁 1535-1541
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15260.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yaguchi T, Kimura S, Sekiguchi M, Kubota Y, Seki M, Yoshida K, Shiraishi Y, Kataoka K, Fujii Y, Watanabe K, Hiwatari M, Miyano S, Ogawa S, Takita J	4. 巻 5
2. 論文標題 Description of longitudinal tumor evolution in a case of multiply relapsed clear cell sarcoma of the kidney	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Rep (Hoboken)	6. 最初と最後の頁 e1458-e1458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cnr2.1458.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masuda T, Maeda S, Shimada S, Sakuramoto N, Morita K, Koyama A, Suzuki K, Mitsuda Y, Matsuo H, Kubota H, Kato I, Tanaka K, Takita J, Hirata M, Kataoka TR, Nakahata T, Adachi S, Hirai H, Mizuta S, Naka K, Imai Y, Kimura S, Sugiyama H, Kamikubo Y	4. 巻 113
2. 論文標題 RUNX1 transactivates BCR-ABL1 expression in Philadelphia chromosome positive acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Sci	6. 最初と最後の頁 529-539
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15239.?	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokosuka T, Ito M, Yoshino Y, Hirose A, Nakamura W, Sakurai Y, Hayashi A, Fujita S, Miyagawa N, Keino D, Iwasaki F, Hamanoue S, Yanagimachi M, Goto S, Nagai J, Ueno H, Takita J, Tanaka Y, Taga T, Goto H	4. 巻 196
2. 論文標題 Using the in vitro drug sensitivity test to identify candidate treatments for transient abnormal myelopoiesis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Br J Haematol	6. 最初と最後の頁 764-768
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bjh.17970.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kurata M, Onishi I, Takahara T, Yamazaki Y, Ishibashi S, Goitsuka R, Kitamura D, Takita J, Hayashi Y	4. 巻 112
2. 論文標題 David A Largaesapda, Kitagawa M, Nakamura T, C/EBP induces B-cell acute lymphoblastic leukemia and cooperates with BLNK mutations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer Sci	6. 最初と最後の頁 4920-4930
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15164.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mikami T, Kato I, Oiki N, Okamoto S, Kamitori, Tasaka K, Ogata H, Tanaka K, Umeda K, Hiramatsu H, Okamoto T, Adachi S, Takita J	4. 巻 44
2. 論文標題 Improvement of bone marrow necrosis by tyrosine kinase inhibitor substitution in a pediatric patient with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Pediatr Hematol Oncol	6. 最初と最後の頁 e539-e542
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MPH.0000000000002157.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mikami T, Kato I, Wing JB, Ueno H, Tasaka K, Tanaka K, Kubota H, Saida S, Umeda K, Hiramatsu H, Isobe T, Hiwatari M, Okada A, Chiba K, Shiraishi Y, Tanaka H, Miyano S, Arakawa Y, Oshima K, Koh K, Adachi S, Iwaisako K, Ogawa S, Sakaguchi S, Takita J	4. 巻 113
2. 論文標題 Alteration of the immune environment in bone marrow from children with recurrent B cell precursor acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Sci	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15186.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Somazu S, Tanaka Y, Tamai M, Watanabe A, Kagami K, Abe M, Harama D, Shinohara T, Akahane K, Goi K, Sugita K, Moriyama T, Yang J, Goto H, Minegishi M, Iwamoto S, Takita J, Inukai T	4. 巻 25
2. 論文標題 NUDT15 polymorphism and NT5C2 and PRPS1 mutations influence thiopurine sensitivity in acute lymphoblastic leukaemia cells	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Cell Mol Med	6. 最初と最後の頁 10521-10533
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jcmm.16981.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Obu S, Umeda K, Ueno H, Sonoda M, Tasaka K, Ogata H, Kozuki K, Nodomi S, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Okamoto T, Ogawa E, Okajima H, Morita K, Kamikubo Y, Kawaguchi K, Watanabe K, Iwafuchi H, Yagyu S, Iehara T, Hosoi H, Nakahata T, Adachi S, Uemoto S, Heike T, Takita J	4. 巻 112
2. 論文標題 CD146 is a potential immunotarget for neuroblastoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer Sci	6. 最初と最後の頁 4617-4326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15124.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takita J	4. 巻 4
2. 論文標題 Molecular Basis and Clinical Features of Neuroblastoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JMAJournal	6. 最初と最後の頁 321-331
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31662/jmaj.2021-0077.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daifu T, Mikami M, Hiramatsu H, Iwai A, Umeda K, Noura M, Kubota H, Masuda T, Furuichi K, Takasaki S, Noguchi Y, Morita K, Bando T, Hirata M, Kataoka TR, Nakahata T, Kuwahara Y, Iehara T, Hosoi H, Takita J, Sugiyama H, Adachi S, Kamikubo Y	4. 巻 68
2. 論文標題 Suppression of malignant rhabdoid tumors through Chb-M'-mediated RUNX1 inhibition	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer	6. 最初と最後の頁 e28789-e28789
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.28789.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Y, Sato-Otsubo A, Takita J, Morio T, Takagi M	4. 巻 63
2. 論文標題 Copy Number Alteration Analysis for Neuroblastoma using Droplet Digital PCR	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Int	6. 最初と最後の頁 1192-1197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14606.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Van Thillo Q, De Bie J, Seneviratne J, Demeyer S, Omari S, Gielen O, Sarah P, Segers H, Boecks N, Marshall G, Cheung B, Isobe K, Kato I, Takita J, Amos TG, Deveson IW, McCalmont H, Lock RB, Oxley EP, Garwood MM, Dickins RA, Uyttebroeck A, Carter DR, Cools J, de Bock CE	4. 巻 12
2. 論文標題 Oncogenic cooperation between TCF7-SPI1 and NRAS(G12D) requires β -catenin activity to drive T-cell acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nat Commun	6. 最初と最後の頁 4164-4164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-021-24442-9.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomii T, Imamura T, Tanaka K, Kato I, Mayumi A, Soma E, Yano M, Sakamoto K, Mikami T, Morita M, Kiyokawa N, Horibe K, Adachi S, Nakahata T, Takita J, Hosoi H	4. 巻 35
2. 論文標題 Leukemic cells expressing NCOR1-LYN are sensitive to dasatinib in vivo in a patient-derived xenograft mouse model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Leukemia	6. 最初と最後の頁 2092-2096
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-020-01091-3.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato K, Yoshimi A, Noda A, Otani H, Hojo H, Tanaka M, Tanaka Y, Ito Y, Nishimura R, Takita J, Yanai T, Koike K, Tsuchida M	4. 巻 63
2. 論文標題 Distinct clonal evolution in a case with anaplastic embryonal rhabdomyosarcoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Int	6. 最初と最後の頁 782-789
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14499.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akazawa R, Otsuka S, Kato I, Imadome K, Takita J	4. 巻 64
2. 論文標題 Transient remission of chronic active EBV infection after chemotherapy alone	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pediatr Int	6. 最初と最後の頁 e14836 -e14836
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14836.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokosuka T, Ito M, Yoshino Y, Hirose A, Nakamura W, Sakurai Y, Hayashi A, Fujita S, Miyagawa N, Keino D, Iwasaki F, Hamanoue S, Yanagimachi M, Goto S, Nagai J, Ueno H, Takita J, Tanaka Y, Taga T, Goto H	4. 巻 196
2. 論文標題 Using the in vitro drug sensitivity test to identify candidate treatments for transient abnormal myelopoiesis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Br J Haematol	6. 最初と最後の頁 764-768
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bjh.17970.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kurata M, Onishi I, Takahara T, Yamazaki Y, Ishibashi S, Goitsuka R, Kitamura D, Takita J, Hayashi Y	4. 巻 112
2. 論文標題 David A Largaespada, Kitagawa M, Nakamura T, C/EBP induces B-cell acute lymphoblastic leukemia and cooperates with BLNK mutations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer Sci	6. 最初と最後の頁 4920-4930
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15164.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura S, Sekiguchi M, Watanabe K, Hiwatari M, Seki M, Yoshida K, Isobe T, Shiozawa Y, Suzuki H, Hoshino N, Hayashi Y, Oka A, Miyano S, Ogawa S, Takita J	4. 巻 16
2. 論文標題 Association of high-risk neuroblastoma classification based on expression profiles with differentiation and metabolism	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0245526
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0245526.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akazawa R, Kato I, Kubota H, Isobe K, Masuno H, Mikami M, Shiota M, Kouzuki K, Kawabata N, Tanaka K, Saida S, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J	4. 巻 68
2. 論文標題 Inotuzumabozogamicin is an effective treatment for CD22-positive acute undifferentiated leukemia: A case report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer	6. 最初と最後の頁 e28976-e28976
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.28976.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kamitori T, Umeda K, Akazawa R, Iwai A, Obu S, Isobe K, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Taga T, Adachi S, Takita J	4. 巻 68
2. 論文標題 Inotuzumab ozogamicin following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation successfully rescued relapse of CD19-negative acute lymphoblastic leukemia after CAR-T cell therapy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer	6. 最初と最後の頁 e28980-e28980
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.28980.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ono R, Ueno H, Yoshida K, Takahashi S, Yoshihara H, Nozaki T, Suzuki K, Nakazawa A, Saiki R, Seki M, Takita J, Ogawa S, Manabe A, Hasegawa D	4. 巻 112
2. 論文標題 Clonal evidence for the development of neuroblastoma with extensive copy-neutral loss of heterozygosity arising in a mature teratoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer Sci	6. 最初と最後の頁 2921-2927
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.14931.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kosaka T, Uto M, Hiraoka S, Kato I, Umeda K, Hiramatsu H, Sakamoto A, Takita J, Mizowaki T	4. 巻 68
2. 論文標題 Radiation recall myositis caused by pazopanib in a patient with refractory osteosarcoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Blood Cancer	6. 最初と最後の頁 e29147-e29147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.29147.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato K, Yoshimi A, Noda A, Otani H, Hojo H, Tanaka M, Tanaka Y, Ito Y, Nishimura R, Takita J, Yanai T, Koike K, Tsuchida M	4. 巻 63
2. 論文標題 Distinct clonal evolution in a case with anaplastic embryonal rhabdomyosarcoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Int	6. 最初と最後の頁 782-789
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14499.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuo H, Wakita T, Hiramatsu H, Ohmori K, Kodama K, Nakatani K, Kamikubo Y, Iwamoto S, Kondo T, Takaori-Kondo A, Takita J, Tomizawa D, Taga T, Adachi S	4. 巻 192
2. 論文標題 Blast cells in acute megakaryoblastic leukaemia with Down syndrome are characterized by low CLEC12A expression	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Br J Haematol	6. 最初と最後の頁 e7-e11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bjh.17122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato S, Kubota Y, Sekiguchi M, Watanabe K, Shinozaki-Ushiku A, Takita J, Hiwatari M	4. 巻 38
2. 論文標題 KMT2A-rearranged diffuse large B-cell lymphoma in a child: a case report and molecular characterization	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pediatr Hematol Oncol	6. 最初と最後の頁 281-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/08880018.2020.1838013.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai R, Takita J, Ito S, Deguchi T, Kiyokawa N, Ogiwara H, Hishiki T, Ogawa S, Okita H, Matsumoto K, Yoshioka T, Kato M	4. 巻 28
2. 論文標題 High prevalence of SMARCB1 constitutional abnormalities including mosaicism in malignant rhabdoid tumors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Journal of Human Genetics	6. 最初と最後の頁 1124 ~ 1128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41431-020-0614-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maeda S, Kato I, Umeda K, Hiramatsu H, Takita J, Adachi S, Tsuneto S	4. 巻 37
2. 論文標題 Continuous deep sedation at the end of life in children with cancer: experience at a single center in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatric Hematology and Oncology	6. 最初と最後の頁 365 ~ 374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/08880018.2020.1744781	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka K, Kato I, Tanaka M, Morita D, Matsuda K, Takahashi Y, Nakahata T, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J, Nakazawa Y	4. 巻 18
2. 論文標題 Direct Delivery of piggyBac CD19 CAR T Cells Has Potent Anti-tumor Activity against ALL Cells in CNS in a Xenograft Mouse Model	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Molecular Therapy - Oncolytics	6. 最初と最後の頁 37 ~ 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.omto.2020.05.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 滝田 順子	4. 巻 61
2. 論文標題 小児造血器腫瘍における精密医療と治療標的	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床血液	6. 最初と最後の頁 657 ~ 664
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11406/rinketsu.61.657	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe A, Kimura S, Kubota Y, Takita J, Goto H, Sakaguchi K, Minegishi M, Iwamoto S, Shinohara T, Kagami K, Abe M, Akahane K, Goi K, Sugita K, Inukai T	4. 巻 136
2. 論文標題 Association of aberrant ASNS imprinting with asparaginase sensitivity and chromosomal abnormality in childhood BCP-ALL	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Blood	6. 最初と最後の頁 2319 ~ 2333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1182/blood.2019004090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawaguchi K, Umeda K, Takachi T, Ogura T, Horikoshi Y, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J, Watanabe K	4. 巻 67
2. 論文標題 Effects of cryotherapy on high dose melphalan induced oral mucositis in pediatric patients undergoing autologous stem cell transplantation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatric Blood Cancer	6. 最初と最後の頁 e28495
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.28495	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sekiguchi M, Seki M, Hata K, Ogawa S, Takita J	4. 巻 4
2. 論文標題 Integrated multiomics analysis of hepatoblastoma unravels its heterogeneity and provides novel druggable targets	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 npj Precision Oncology	6. 最初と最後の頁 eCollection
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41698-020-0125-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akazawa R, Umeda K, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Sakamoto A, Arakawa Y, Sumiyoshi S, Okamoto T, Moritake H, Adachi S, Takita J	4. 巻 50
2. 論文標題 Temozolomide and etoposide combination for the treatment of relapsed osteosarcoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 948 ~ 952
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyaa070	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tasaka K, Umeda K, Kamitori T, Ogata H, Mikami T, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Arakawa Y, Uto M, Mizowaki T, Yoshizawa A, Adachi S, Takita J	4. 巻 43
2. 論文標題 Intracranial Growing Teratoma Syndrome With Intraventricular Lipid Accumulation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Pediatric Hematology/Oncology	6. 最初と最後の頁 e505 ~ e507
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MPH.0000000000001905	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Laukkanen S, Oksa L, Nikkil A, Lahnalampi M, Parikka M, Seki M, Takita J, Degerman S, de Bock CE., Heinniemi M, Lohi O	4. 巻 61
2. 論文標題 SIX6 is a TAL1-regulated transcription factor in T-ALL and associated with inferior outcome	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Leukemia & Lymphoma	6. 最初と最後の頁 3089 ~ 3100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10428194.2020.1804560	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamabata T, Umeda K, Kouzuki K, Tanaka T, Daifu T, Nodomi S, Saida S, Kato I, Baba S, Hiramatsu H, Watanabe K, Takita J, Heike T	4. 巻 10
2. 論文標題 Pluripotent stem cell model of Shwachman-Diamond syndrome reveals apoptotic predisposition of hemoangiogenic progenitors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 14859
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-71844-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Y, Seki M, Kawai T, Isobe T, Yoshida M, Sekiguchi M, Kimura S, Watanabe K, Sato-Otsubo A,, Tanaka H, Hiwatari M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Ogawa S, Hata K, Tanaka Y, Takita J	4. 巻 3
2. 論文標題 Comprehensive genetic analysis of pediatric germ cell tumors identifies potential drug targets	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 544
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-020-01267-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Irikura T, Mitani Y, Seki M, Takita J, Hiwatari M	4. 巻 62
2. 論文標題 Cold agglutinin disease in an infant: remission after intravenous immunoglobulin	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatrics International	6. 最初と最後の頁 1214 ~ 1216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14289	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueno H, Yoshida K, Shiozawa Y, Nannya Y, Iijima-Yamashita Y, Kiyokawa N, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Isobe T, Seki M, Kimura S,, Takita J, Imamura T, Miyano S, Manabe A, Horibe K, Ogawa S, Sanada M	4. 巻 4
2. 論文標題 Landscape of driver mutations and their clinical impacts in pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Blood Advances	6. 最初と最後の頁 5165 ~ 5173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1182/bloodadvances.2019001307	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計153件 (うち招待講演 36件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 片井悠太, 上野浩生, 才田聡, 加藤格, 梅田雄嗣, 平松英文, 今村俊彦, 康勝好, 滝田順子
2. 発表標題 B前駆細胞急性リンパ芽球性白血病におけるRNAシーケンスを用いたIGHクローナリティの臨床的意義に関する検討(Clinical significance of RNA sequencing based IGH clonality analysis in B-cell acute lymphoblastic leukemia)(英語)
3. 学会等名 第125回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部寛之, 神鳥達哉, 上野浩生, 才田聡, 加藤格, 梅田雄嗣, 平松英文, 滝田順子
2. 発表標題 ETV6-HOXA11-AS融合遺伝子に伴うHOXA11-AS高発現を認めたEarly T-cell precursor ALLの一例(Early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemia harboring ETV6-HOXA11-AS with high expression of HOXA11-AS)
3. 学会等名 第125回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田坂佳資, 上野浩生, 山崎夏維, 奥野高裕, 磯部知弥, 木村俊介, 梅田雄嗣, 原純一, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 共通の細胞起源から生じた,FGFR1変異/増幅を有する神経芽腫/褐色細胞腫の複合腫瘍(FGFR1 mutation and amplification in common cellular origin in a composite tumor with neuroblastoma and pheochromocytoma)(英語)
3. 学会等名 第125回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 磯部清孝, 上野浩生, 加藤格, 磯部知弥, 奥野啓介, 才田聡, 梅田雄嗣, 平松英文, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 網羅的遺伝子解析によるLineage switch再発したSPI1融合遺伝子陽性T細胞性急性リンパ性白血病の病態解析(Genome / transcriptome analysis of a case with T cell acute lymphoblastic leukemia that switched to myeloid leukemia)
3. 学会等名 第125回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上月 景弘, 梅田 雄嗣, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 園田 真理, 岡本 竜弥, 小川 絵里, 川崎 秀徳, 岸田 憲二, 滝田 順子
2. 発表標題 巨頭症をきっかけに遺伝子診断を実施した卵巢原発未熟奇形腫の1女児例
3. 学会等名 第447回日本小児科学会京都地方会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 AYA世代の診療の課題
3. 学会等名 第42回日本脳神経外科コンgres総会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児固形腫瘍におけるゲノム医療の最前線
3. 学会等名 第2回埼玉小児固形腫瘍研究会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 神経芽腫における新規克服法の開発
3. 学会等名 第17回北関東小児がんセミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児がんにおける多層的オミックス解析による病態理解
3. 学会等名 第18回医学生・若手医師のための小児科診療最前線（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 Cancer heterogeneity of infant leukemia and its implication for prognosis and treatment
3. 学会等名 第40回札幌国際がんシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 子どものがんを克服するための挑戦
3. 学会等名 京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児がんのゲノム医療
3. 学会等名 第2回小児がんゲノムWEBセミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児がんにおける多様性の解明と新規克服法の開発
3. 学会等名 九州山口小児がん学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児がんにおけるゲノム医療 ～見えてきた課題～
3. 学会等名 第3回群馬小児がんゲノムセミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三上貴司、加藤 格、Wing James B、上野 浩生、才田 聡、梅田 雄嗣、平松 英文、樋渡 光輝、荒川ゆうき、大嶋 宏一、康 勝好、足立 壯一、祝迫 恵子、小川 誠司、坂口 志文、滝田 順子
2. 発表標題 マスマイトメトリーを用いた小児再発性B前駆細胞性急性リンパ性白血病の初発・再発骨髄の腫瘍免疫環境解析
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤澤 嶺, 加藤 格, 山田 全毅, 三上 貴司, 上野 浩生, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 佐藤 真穂, 澤田 明久, 井上 雅美, 今留 謙一, 滝田 順子
2. 発表標題 EBV関連NKリンパ増殖性におけるマルチオミクス解析により異常なDNAメチル化を伴う予後不良群が示唆された
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神鳥 達哉, 才田 聡, 上野 浩生, 加藤 格, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 垣内 伸之, 齋藤 明子, 足立 壯一, 富澤 大輔, 柴 徳生, 林泰秀, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 最未分化型急性骨髄性白血病および急性未分化型白血病の分子遺伝学的特徴に関する検討
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田坂 佳資, 梅田 雄嗣, 上野 浩生, 神鳥 達哉, 緒方 瑛人, 才田 聡, 山田 洋介, 垣内 伸之, 田中 祐吉, 大喜多 肇, 義岡 孝子, 瀧本 哲也, 檜山 英三, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 肝未分化胎児性肉腫と肝間葉系過誤腫の統合的遺伝学的検討
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 磯部 清孝, 加藤 格, 上野 浩生, 関 正史, 木村 俊介, 磯部 知弥, 垣内 伸之, 大木 健太郎, 清河 信敬, 後藤 裕明, 渡辺 新, 佐藤 篤, 康 勝好, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 SPI1 高発現を示す T 細胞性急性リンパ性白血病の分子遺伝学的基盤について
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋渡 光輝, 関 正史, 松野 良介, 吉田 健一, 長澤 武, 佐藤 亜以子, 山本 将平, 加藤 元博, 渡邊 健太郎, 関口 昌央, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 神経芽腫における新規 TENM 3-ALK 融合遺伝子の解析
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西村 友美, 垣内 伸之, 吉田 健一, 桜井 孝規, 片岡 竜貴, 澤田 守男, 竹内 康英, 前田 紘奈, 馬場 郷子, 滝田 順子, 宮野 悟, 万代 昌紀, 竹内 賢吾, 羽賀 博典, 戸井 雅和, 小川 誠司
2. 発表標題 正常およびがん組織におけるクローン進化乳管上皮細胞から乳癌へ至るクローン進化
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 難治性小児白血病の分子病態の研究
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神鳥 達哉, 滝田 順子
2. 発表標題 最未分化型急性骨髄性白血病に対する網羅的遺伝学的解析
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三上 貴司, 滝田 順子
2. 発表標題 ブリナツモマブ投与後に系統転換し M-MDSC 様の形質を獲得した MLL-AF4 転座陽性白血病
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤 格, 滝田 順子
2. 発表標題 本邦における小児 AYA 世代 BALL に対する tisagenlecleucel のリアルワールドデータ
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 磯部 清孝, 滝田 順子
2. 発表標題 SP11 高発現を示す T 細胞性急性リンパ性白血病の分子遺伝学的特徴について
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤澤 嶺, 滝田 順子
2. 発表標題 EBV 関連 NK リンパ増殖症におけるマルチオミクス解析により異常な DNA メチル化を伴う予後不良群が示唆された
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片井 悠太, 神鳥 達哉, 上野 浩生, 赤澤 嶺, 磯部 清孝, 才田 聡, 加藤 格, 今村 俊彦, 康 勝好, 滝田 順子
2. 発表標題 小児急性リンパ性白血病におけるRNAシーケンスを用いたIGHクローナリティの解析と臨床的意義の検討
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 難治性小児がんの克服を目指した挑戦
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇佐美 亜由子, 才田 聡, 神鳥 達哉, 梅田 雄嗣, 加藤 格, 平松 英文, 荒川 歩, 米盛 勸, 滝田 順子
2. 発表標題 アレクチニブの長期投与が有用であったRANBP2-ALK陽性の類上皮炎症性筋線維芽細胞腫瘍
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田坂 佳資, 梅田 雄嗣, 神鳥 達哉, 田中 祐吉, 大喜多 肇, 義岡 孝子, 瀧本 哲也, 檜山 英三, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 C19MC miRNAの異常は肝未分化肉腫と肝間葉系過誤腫に共通する分子基盤である
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤澤 嶺, 加藤 格, 山田 全毅, 三上 貴司, 上野 浩生, 佐藤 真穂, 澤田 明久, 井上 雅美, 今留 謙一, 滝田 順子
2. 発表標題 EBV関連NKリンパ増殖症におけるマルチオミクス解析により異常なDNAメチル化を伴う予後不良群が示唆された
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神鳥 達哉, 才田 聡, 齋藤 明子, 足立 壯一, 富澤 大輔, 柴 徳生, 林 泰秀, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 小児最末分化型急性骨髄性白血病および急性未分化型白血病に対する網羅的遺伝学的解析
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川口 晃司, 神鳥 達哉, 安積 昌平, 緒方 瑛人, 高地 貴行, 小倉 妙美, 堀越 泰雄, 岩淵 英人, 滝田 順子, 渡邊 健一郎
2. 発表標題 縦隔胚細胞腫瘍にNIRAS変異陽性の悪性黒色腫を合併した15歳男児例
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井 篤, 神鳥 達哉, 田中 邦昭, 小林 健一郎, 田中 里奈, 才田 聡, 滝田 順子, 毎原 敏郎, 宇佐美 郁也, 平家 俊男
2. 発表標題 ALK陽性組織球症における新規ALK融合遺伝子の同定
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三上 貴司, 加藤 格, James Wing, 田坂 佳資, 神鳥 達哉, 窪田 博仁, 平松 英文, 小川 誠二, 坂口 志文, 滝田 順子
2. 発表標題 ブリナツモマブ投与中に系統転換したKMT2A再構成白血病にみられたMDSCに類似する免疫学的形質
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 磯部 清孝, 加藤 格, 上野 浩生, 関 正史, 木村 俊介, 磯部 知弥, 佐藤 篤, 康 勝好, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 SPI1高発現を示すT細胞性急性リンパ性白血病の統合的な遺伝的特徴について
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋渡 光輝, 関 正史, 松野 良介, 吉田 健一, 長澤 武, 佐藤 亜以子, 山本 将平, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 AYA神経芽腫症例に同定された新規TENM 3-ALK融合遺伝子の機能解析
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 後藤 裕明, 匂坂 麻衣子, 伊藤 美恵子, 上野 浩生, 滝田 順子, 柳町 昌克
2. 発表標題 無血清培地を用いた急性リンパ性白血病細胞のin vitro 薬剤感受性試験
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大封 智雄, 梅田 雄嗣, 横山 淳史, 吉田 健司, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 足立 壯一, 樋口 嘉久, 滝田 順子
2. 発表標題 LCH関連中枢神経変異症様画像所見を呈した若年性黄色肉芽腫
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山路 棟康, 田中 邦昭, 岩井 篤, 小林 健一郎, 北河 徳彦, 梅田 雄嗣, 滝田 順子, 岡本 晋弥, 宇佐美 郁也, 平家 俊男
2. 発表標題 stage diffuse anaplastic Wilms tumor 4歳男児例において検出されたTP53遺伝子変異の臨床的意義の考察
3. 学会等名 第64回小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田坂 佳寛, 加藤 格, 竹下 峻希, 吉岡 由布, 宇佐美 亜由子, 内原 嘉仁, 赤澤 嶺, 神鳥 達哉, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 足立 壯一, 滝田 順子
2. 発表標題 造血細胞移植後3年間のギルテリチニブ維持療法中断時に再々発したFLT3-ITD陽性再発AMLの一例
3. 学会等名 第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大喜多 肇
2. 発表標題 小児腫瘍の病理と臨床-up to date-症例で学ぶ未分化小円形細胞肉腫 小児未分化小円形細胞肉腫の病理
3. 学会等名 第64回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 義岡 孝子, 大喜多 肇, 中野 雅之, 羽賀 千都子
2. 発表標題 骨軟部腫瘍の病理診断: コンサルテーションと中央診断 多施設共同臨床研究における小児固形腫瘍の中央病理診断システム
3. 学会等名 第111回日本病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田 馨、白井 了太、吉田 仁典、飯島 友加、上野 広生、高橋 浩之、今村 俊彦、富澤 大輔、犬飼 岳史、清河 信敬、Yang Jun J、康 勝好、堀部 敬三、真田 昌、加藤 元博
2. 発表標題 The association between NUDT15 polymorphisms and prognosis in pediatric ALL.
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石原 卓、山田 朋美、荒川 ゆうき、宮村 能子、出口 隆生、堀 壽成、野上 由貴、石丸 紗恵、高地 貴行、矢野 未央、佐々木 伸也、齋藤 明子、真部 淳、堀部 敬三、今村 俊彦、富澤 大輔、真田 昌
2. 発表標題 PCR-MRD assay targeting KMT2A genomic breakpoint fusion sequence in infants with ALL
3. 学会等名 第84回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田朋美、宮村能子、Mariko Eguchi、今村俊彦、堀壽成、齋藤明子、真部 淳、堀部 敬三、富澤 大輔、真田 昌
2. 発表標題 ドロップレットデジタルPCRによるKMT2A陽性乳児白血病のクロナリティ分析
3. 学会等名 第64回日本小児血液がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 真田 昌
2. 発表標題 急性リンパ性白血病における分子病態の理解に基づく層別化の改善
3. 学会等名 第64回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 「小児とAYA世代の腫瘍学：比較と引継ぎ」小児とAYAがんにおけるゲノム医療の課題
3. 学会等名 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会 日本小児血液・がん学会/日本臨床腫瘍学会 合同シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児がんにおけるPrecision Medici
3. 学会等名 YAMAGATA Hemophilia Web Seminar 2021（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯部 清孝, 上野 浩生, 加藤 格, 関 正史, 木村 俊介, 磯部 知弥, 田中 邦明, 奥野 啓介, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 足立 壮一, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 SPI1融合遺伝子陽性T細胞性急性リンパ性白血病における新規克服法の開発,
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞弓 あずさ, 今村 俊彦, 富井 敏宏, 三上 貴司, 田中 邦昭, 吉田 秀樹, 加藤 格, 川村 眞智子, 滝田 順子, 細井 創
2. 発表標題 SPAG9-JAK2融合遺伝子を有する白血病細胞はSTAT1-BCL-2/MCL-1 axisを活性化する(Activation of the STAT1-BCL-2/MCL-1 axis in leukemic cells with a novel kinase fusion gene SPAG9-JAK2)(英語)
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川端 奈央子, 梅田 雄嗣, 赤澤 嶺, 田中 邦昭, 上月 景弘, 窪田 博仁, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 滝田 順子
2. 発表標題 難治性小児悪性固形腫瘍に対するテモゾロミド併用化学療法の治療効果予測因子としてのMGMTタンパク発現の有用性の検討
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島 光司, 日衛嶋 栄太郎, 森下 岳, 加藤 健太郎, 仁平 寛士, 本田 吉孝, 井澤 和司, 八角 高裕, 甲良 謙伍, 横山 淳史, 吉田 健司, 平田 拓也, 馬場 志郎, 窪田 博仁, 才田 聡, 加藤 格, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 滝田 順子
2. 発表標題 劇症EBウイルス肝炎の肝移植後再燃の制御に化学療法を要した2歳男児例
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯部 知弥, 高木 正稔, 佐藤 亜衣子, 吉田 健一, 南谷 泰仁, 上野 浩生, 渡邊 健太郎, 永江 玄太, 清河 信敬, 康 勝好, 富澤 大輔, 宮村 能子, 石井 榮一, 水谷 修紀, 小川 誠司, 油谷 浩幸, 滝田 順子
2. 発表標題 網羅的トランスクリプトーム・エピゲノム解析による乳児白血病の分子病態の解明
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 横紋筋肉腫におけるゲノム・エピゲノム解析による新層別化治療と新規治療法の開発
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下 義晶, 野澤 久美子, 藤 浩, 宮地 充, 土屋 邦彦, 細野 亜古, 小川 淳, 菊田 敦, 滝田 順子, 大喜多 肇, 長 祐子, 清谷 千賀子, 横田 勲, 瀧本 哲也, 手良向 聡, 細井 創, 日本小児がん研究グループ横紋筋肉腫委員会
2. 発表標題 遠隔画像診断システムを用いた横紋筋肉腫委員会コンサルテーションチームの活動
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細井 創, 宮地 充, 土屋 邦彦, 細野 亜古, 小川 淳, 菊田 敦, 木下 義晶, 野澤 久美子, 藤 浩, 滝田 順子, 大喜多 肇, 長 祐子, 清谷 知賀子, 横田 勲, 瀧本 哲也, 手良向 聡, 日本小児がん研究グループ横紋筋肉腫委員会
2. 発表標題 我が国における横紋筋肉腫治療多施設共同研究の歴史と今後の展望
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土屋 邦彦, 宮地 充, 細野 亜古, 小川 淳, 菊田 敦, 木下 義晶, 野澤 久美子, 藤 浩, 滝田 順子, 大喜多 肇, 長 裕子, 清谷 知賀子, 横田 勲, 瀧本 哲也, 手良向 聡, 細井 創, 日本小児がん研究グループ横紋筋肉腫委員会
2. 発表標題 小児の保健・医療のエビデンスを構築する前向き研究 希少疾患 横紋筋肉腫に対する臨床研究
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児固形腫瘍におけるゲノム・エピゲノム解析と新規克服法の開発
3. 学会等名 第26回なにわ皮膚腫瘍勉強会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 「小児がん治療につながるゲノム医療」
3. 学会等名 Japan Cancer Forum2021（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田畑阿美, 草野佑介, 村尾昌信, 梅田雄嗣
2. 発表標題 終末期に意思伝達装置を導入した小児脳腫瘍の一例 - 家族とのコミュニケーションの支援を目指して -
3. 学会等名 第55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takita J
2. 発表標題 “ Integrated genetic and epigenetic analysis of pediatric cancers ” Invited Presentation
3. 学会等名 JCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 細胞老化の関与とその治療標的としての可能性「小児がん発症の分子機構」市民公開講座
3. 学会等名 千里ライフサイエンスセミナー ライフステージとがん（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯部清孝, 滝田順子
2. 発表標題 トランスクリプトームとメチル化アレイの統合解析により同定されたT細胞性急性リンパ性白血病における新規高リスク群について
3. 学会等名 第80回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊健太郎, 滝田順子
2. 発表標題 難治性骨肉腫の新規治療標的
3. 学会等名 第80回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田坂佳資, 上野浩生, 山崎夏維, 奥野高裕, 磯部知弥, 木村俊介, 梅田雄嗣, 原純一, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 神経芽腫-褐色細胞腫混合腫瘍は同一クローンから生じ、未分化な幹細胞様発現プロファイルを呈する
3. 学会等名 第80回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児血液腫瘍疾患に対する新規解析手法 小児造血器腫瘍における多層的オミックス解析, シンポジウム
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内原 嘉仁, 梅田 雄嗣, 三上 真充, 山下 純英, 西田 南海子, 高木 雄久, 高橋 潤, 滝田 順子, 秦 大資, 塩田 光隆
2. 発表標題 頭蓋内非胚腫性胚細胞腫瘍治療10年後に脊髄神経鞘腫を発症した1例
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大部 聡, 梅田 雄嗣, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 荒川 芳輝, 宇藤 恵, 溝脇 尚志, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 頭蓋内germinomaの診断における髄液中胎盤型アルカリフォスファターゼ(PLAP)の有用性
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有賀 謙, 鈴木 孝二, 田中 佳代, 吉川 利英, 安富 素子, 神鳥 達哉, 滝田 順子, 大嶋 勇成
2. 発表標題 KMT2A遺伝子再構成陰性の先天性急性リンパ性白血病の男児例
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高木正稔、小川千登世、家原知子、野上由貴、富澤大輔、小川淳、滝田順子、水谷修紀、森尾友宏、細井創
2. 発表標題 小児難治性固形腫瘍に対するオラパリブの第I相試験(First in children phase I clinical study of oral olaparib in pediatric patients with refractory solid tumors)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上月景弘、梅田雄嗣、才田聡、加藤格、平松英文、園田真理、岡本竜弥、小川絵里、川崎秀徳、滝田順子
2. 発表標題 卵巣未熟奇形腫を発症したCowden症候群の1例(Immature teratoma of the ovary associated with Cowden syndrome)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内原 嘉仁、梅田 雄嗣、赤澤嶺、上月景弘、才田聡、加藤格、平松英文、滝田順子
2. 発表標題 再発骨肉腫2例に対するregorafenibの治療経験(Regorafenib treatment for recurrent or refractory osteosarcoma), ,
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大植啓史、梅田雄嗣、内原 嘉仁、幸伏寛和、緒方瑛人、才田聡、加藤格、平松英文、滝田順子
2. 発表標題 骨転移を伴った肝芽腫の2例(Hepatoblastoma with bone metastasis)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名	岡本竜弥、岡島英明、上林エレナ幸江、園田真理、小川絵里、梅田雄嗣、平松英文、足立壯一、滝田順子、波多野悦朗
2. 発表標題	腫瘍破裂にて発症し、診断時一期的切除術を行った小児肝腫瘍の2例(Two cases of ruptured malignant liver tumor in children treated with primary resection before systemic chemotherapy)
3. 学会等名	第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	田坂佳資、上野浩生、梅田雄嗣、武内康英、垣内伸之、才田聡、加藤格、平松英文、小川誠司、滝田順子
2. 発表標題	肝未分化肉腫と肝間葉系過誤腫の統合的遺伝学的検討(Integrated genetic analysis of undifferentiated embryonal sarcoma of the liver and mesenchymal hamartoma of the liver)
3. 学会等名	第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	渡邊健太郎、木村俊介、樋渡光輝、加藤元博、宮野悟、上野浩生、南谷泰仁、油谷浩幸、小川誠司、滝田順子
2. 発表標題	DNAメチル化解析による神経芽腫11qLOH群内の超予後不良群の同定と、その「がん代謝」の特徴を利用した新規治療(Identification of ultra-high-risk subgroup with 11q deletion in neuroblastoma cases by DNA methylation profiling and its treatment targeting cancer metabolism)
3. 学会等名	第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	安積昌平、高地貴行、板倉陽介、川口晃司、堀越泰雄、神鳥達哉、才田聡、滝田順子、渡邊健一郎
2. 発表標題	急性リンパ性白血病型の寛解導入療法が奏功したPICALM-MLLT10陽性の急性分類不能型白血病(Complete remission in PICALM-MLLT10-positive acute undifferentiated leukemia after acute lymphoblastic leukemia-oriented induction therapy)
3. 学会等名	第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名 赤澤嶺、上野浩生、加藤格、才田聡、山田全毅、佐藤真穂、澤田明久、井上雅美、今留謙一、滝田順子
2. 発表標題 一卵性双生児のEBV関連Tリンパ増殖性疾患不一致例のゲノム解析(Genetic analysis of a monozygotic twins discordant for EBV-associated T lymphoproliferative disease)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島光司、加藤格、窪田博仁、川端奈央子、田中邦昭、上月景弘、才田聡、梅田雄嗣、平松英文、滝田順子
2. 発表標題 Lineage switchの際、PAX5に遺伝子変異を認めたMLL-AF9陽性乳児単球性白血病の1例(A case of MLL-AF9 infant acute monocytic leukemia characterized by biallelic PAX5 alterations at relapse with lineage switch)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神鳥達哉、上野浩生、才田聡、斎藤明子、足立壯一、富澤大輔、柴徳生、林泰秀、小川誠司、滝田順子
2. 発表標題 小児最末分化型急性骨髄性白血病(FAB分類M0)の遺伝学的特徴に関する包括的検討(Comprehensive genetic analysis of pediatric minimally differentiated acute myeloid leukemia (AML-M0))
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯部清孝、上野浩生、加藤格、関正史、木村俊介、磯部知弥、佐藤篤、康勝好、小川誠司、滝田順子
2. 発表標題 SPI1融合遺伝子陽性T-ALL様の発現/メチル化パターンを示すETP-ALLについて(Frequent SPI1-like signature in early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemia)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 「小児とAYA世代の腫瘍学：比較と引継ぎ」小児とAYAがんにおけるゲノム医療の課題
3. 学会等名 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会 日本小児血液・がん学会/日本臨床腫瘍学会 合同シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児がんにおけるPrecision Medici
3. 学会等名 YAMAGATA Hemophilia Web Seminar 2021（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯部 清孝, 上野 浩生, 加藤 格, 関 正史, 木村 俊介, 磯部 知弥, 田中 邦明, 奥野 啓介, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 足立 壮一, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 SP11融合遺伝子陽性T細胞性急性リンパ性白血病における新規克服法の開発,
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞弓 あずさ, 今村 俊彦, 富井 敏宏, 三上 貴司, 田中 邦昭, 吉田 秀樹, 加藤 格, 川村 眞智子, 滝田 順子, 細井 創
2. 発表標題 SPAG9-JAK2融合遺伝子を有する白血病細胞はSTAT1-BCL-2/MCL-1 axisを活性化する(Activation of the STAT1-BCL-2/MCL-1 axis in leukemic cells with a novel kinase fusion gene SPAG9-JAK2)(英語)
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川端 奈央子, 梅田 雄嗣, 赤澤 嶺, 田中 邦昭, 上月 景弘, 窪田 博仁, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 滝田 順子
2. 発表標題 難治性小児悪性固形腫瘍に対するテモゾロミド併用化学療法の治療効果予測因子としてのMGMTタンパク発現の有用性の検討
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯部 知弥, 高木 正稔, 佐藤 亜衣子, 吉田 健一, 南谷 泰仁, 上野 浩生, 渡邊 健太郎, 永江 玄太, 清河 信敬, 康 勝好, 富澤 大輔, 宮村 能子, 石井 榮一, 水谷 修紀, 小川 誠司, 油谷 浩幸, 滝田 順子
2. 発表標題 網羅的トランスクリプトーム・エピゲノム解析による乳児白血病の分子病態の解明
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 横紋筋肉腫におけるゲノム・エピゲノム解析による新層別化治療と新規治療法の開発
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細井 創, 宮地 充, 土屋 邦彦, 細野 亜古, 小川 淳, 菊田 敦, 木下 義晶, 野澤 久美子, 藤 浩, 滝田 順子, 大喜多 肇, 長 祐子, 清谷 知賀子, 横田 勲, 瀧本 哲也, 手良向 聡, 日本小児がん研究グループ横紋筋肉腫委員会
2. 発表標題 我が国における横紋筋肉腫治療多施設共同研究の歴史と今後の展望
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土屋 邦彦, 宮地 充, 細野 亜古, 小川 淳, 菊田 敦, 木下 義晶, 野澤 久美子, 藤 浩, 滝田 順子, 大喜多 肇, 長 裕子, 清谷 知賀子, 横田 勲, 瀧本 哲也, 手良向 聡, 細井 創, 日本小児がん研究グループ横紋筋肉腫委員会
2. 発表標題 小児の保健・医療のエビデンスを構築する前向き研究 希少疾患 横紋筋肉腫に対する臨床研究
3. 学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児固形腫瘍におけるゲノム・エピゲノム解析と新規克服法の開発
3. 学会等名 第26回なにわ皮膚腫瘍勉強会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 「小児がん治療につながるゲノム医療」
3. 学会等名 Japan Cancer Forum2021 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takita J
2. 発表標題 “ Integrated genetic and epigenetic analysis of pediatric cancers ” Invited Presentation
3. 学会等名 JCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 細胞老化の関与とその治療標的としての可能性「小児がん発症の分子機構」市民公開講座
3. 学会等名 千里ライフサイエンスセミナー ライフステージとがん（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯部清孝, 滝田順子
2. 発表標題 トランスクリプトームとメチル化アレイの統合解析により同定されたT細胞性急性リンパ性白血病における新規高リスク群について
3. 学会等名 第80回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊健太郎, 滝田順子
2. 発表標題 難治性骨肉腫の新規治療標的
3. 学会等名 第80回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田坂佳資, 上野浩生, 山崎夏維, 奥野高裕, 磯部知弥, 木村俊介, 梅田雄嗣, 原純一, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 神経芽腫-褐色細胞腫混合腫瘍は同一クローンから生じ、未分化な幹細胞様発現プロファイルを呈する
3. 学会等名 第80回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児血液腫瘍疾患に対する新規解析手法 小児造血管腫瘍における多層的オミックス解析, シンポジウム
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内原 嘉仁, 梅田 雄嗣, 三上 真充, 山下 純英, 西田 南海子, 高木 雄久, 高橋 潤, 滝田 順子, 秦 大資, 塩田 光隆
2. 発表標題 頭蓋内非胚腫性胚細胞腫瘍治療10年後に脊髄神経鞘腫を発症した1例
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大部 聡, 梅田 雄嗣, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 荒川 芳輝, 宇藤 恵, 溝脇 尚志, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 頭蓋内germinomaの診断における髄液中胎盤型アルカリフォスファターゼ(PLAP)の有用性
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有賀 謙, 鈴木 孝二, 田中 佳代, 吉川 利英, 安富 素子, 神鳥 達哉, 滝田 順子, 大嶋 勇成
2. 発表標題 KMT2A遺伝子再構成陰性の先天性急性リンパ性白血病の男児例
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高木正稔、小川千登世、家原知子、野上由貴、富澤大輔、小川淳、滝田順子、水谷修紀、森尾友宏、細井創
2. 発表標題 小児難治性固形腫瘍に対するオラパリブの第I相試験(First in children phase I clinical study of oral olaparib in pediatric patients with refractory solid tumors)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田坂佳資、上野浩生、梅田雄嗣、武内康英、垣内伸之、才田聡、加藤格、平松英文、小川誠司、滝田順子
2. 発表標題 肝未分化肉腫と肝間葉系過誤腫の統合的遺伝学的検討(Integrated genetic analysis of undifferentiated embryonal sarcoma of the liver and mesenchymal hamartoma of the liver)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊健太郎、木村俊介、樋渡光輝、加藤元博、宮野悟、上野浩生、南谷泰仁、油谷浩幸、小川誠司、滝田順子
2. 発表標題 DNAメチル化解析による神経芽腫11qLOH群内の超予後不良群の同定と、その「がん代謝」の特徴を利用した新規治療(Identification of ultra-high-risk subgroup with 11q deletion in neuroblastoma cases by DNA methylation profiling and its treatment targeting cancer metabolism)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安積昌平、高地貴行、板倉陽介、川口晃司、堀越泰雄、神鳥達哉、才田聡、滝田順子、渡邊健一郎
2. 発表標題 急性リンパ性白血病型の寛解導入療法が奏功したPICALM-MLLT10陽性の急性分類不能型白血病(Complete remission in PICALM-MLLT10-positive acute undifferentiated leukemia after acute lymphoblastic leukemia-oriented induction therapy)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤澤嶺、上野浩生、加藤格、才田聡、山田全毅、佐藤真穂、澤田明久、井上雅美、今留謙一、滝田順子
2. 発表標題 一卵性双生児のEBV関連Tリンパ増殖性疾患不一致例のゲノム解析(Genetic analysis of a monozygotic twins discordant for EBV-associated T lymphoproliferative disease)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島光司、加藤格、窪田博仁、川端奈央子、田中邦昭、上月景弘、才田聡、梅田雄嗣、平松英文、滝田順子
2. 発表標題 Lineage switchの際、PAX5に遺伝子変異を認めたMLL-AF9陽性乳児単球性白血病の1例(A case of MLL-AF9 infant acute monocytic leukemia characterized by biallelic PAX5 alterations at relapse with lineage switch)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神鳥達哉、上野浩生、才田聡、斎藤明子、足立壯一、富澤大輔、柴徳生、林泰秀、小川誠司、滝田順子
2. 発表標題 小児最末分化型急性骨髄性白血病(FAB分類M0)の遺伝学的特徴に関する包括的検討(Comprehensive genetic analysis of pediatric minimally differentiated acute myeloid leukemia (AML-M0))
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯部清孝、上野浩生、加藤格、関正史、木村俊介、磯部知弥、佐藤篤、康勝好、小川誠司、滝田順子
2. 発表標題 SPI1融合遺伝子陽性T-ALL様の発現/メチル化パターンを示すETP-ALLについて(Frequent SPI1-like signature in early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemia)
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大部 聡, 梅田 雄嗣, 田坂 佳資, 緒方 瑛人, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 川口 晃司, 渡邊 健一郎, 柳生 茂希, 家原 知子, 細井 創, 中畑 龍俊, 足立 壯一, 平家 俊男, 滝田 順子
2. 発表標題 CD146は神経芽腫に対する治療標的となりうる(CD146 is a potential therapeutic target for neuroblastoma)
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田坂 佳資, 加藤 格, 池田 勇八, 大封 智雄, 磯部 清孝, 木川 崇, 田中 邦昭, 赤澤 嶺, 緒方 瑛人, 三上 貴司, 菊田 敦, 佐藤 篤, 多賀 崇, 滝田 順子
2. 発表標題 小児がん治療の日常診療の違い 第8回CCLSG/JACLS合同夏季セミナーアンケート結果
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保田 泰央, 関 正史, 河合 智子, 磯部 知弥, 関口 昌央, 木村 俊介, 渡邊 健太郎, 佐藤 亜衣子, 吉田 健一, 樋渡 光輝, 岡 明, 林 泰秀, 宮野 悟, 小川 誠司, 秦 健一郎, 田中 祐吉, 滝田 順子
2. 発表標題 小児胚細胞腫瘍の包括的ゲノム解析
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小山 朝美, 三上 貴司, 加藤 格, 神鳥 達哉, 田中 邦昭, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 足立 壯一, 滝田 順子
2. 発表標題 最新型マスマイトメトリーを用いた小児骨髄の免疫環境解析
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梅田 雄嗣, 上月 景弘, 滝田 順子
2. 発表標題 患者由来iPS細胞を用いた遺伝性リンパ浮腫疾患の病態解明
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平松 英文, 加藤 格, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 足立 壯一, 滝田 順子
2. 発表標題 難治性小児がんに対する免疫治療の現状と今後の展望について 小児・若年成人の急性リンパ芽球性白血病に対するCAR-T細胞療法の実際と課題
3. 学会等名 第123回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 次世代シーケンスを利用した小児がんの先端医療
3. 学会等名 国際医療福祉大学大学院多職種協働市民公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 希少がんの診療・研究の現状と展望
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 関口昌央, 関正史, 吉田健一, 田中水緒, 白井了太, 宗崎良太, 白石友一, 樋渡光輝, 加藤元博, 田口智章, 田中祐吉, 宮野悟, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 マルチオミックス解析による肝芽腫の治療標的ODC1の同定
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊健太郎, 加登翔太, 磯部知弥, 緒方瑛人, 田坂佳資, 上野浩生, 南谷泰仁, 田中洋子, 白石友一, 千葉健一, 梅田雄嗣, 樋渡光輝, 宮野悟, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 難治性骨肉腫における糖鎖遺伝子の役割と治療標的としての可能性
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児固形腫瘍におけるゲノム解析
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児造血管腫瘍におけるオミックス解析
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 緒方瑛人, 梅田雄嗣, 田坂佳資, 神鳥達哉, 三上貴司, 大部聡, 上野浩生, 才田聡, 加藤格, 平松英文, 川口晃司, 渡邊健一郎, 岩淵栄人, 足立壯一, 滝田順子
2. 発表標題 横紋筋肉腫に対するCD146標的治療の有効性
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中邦昭, 加藤格, 土橋悠, 今井順一, 三上貴司, 伊藤守, 中畑龍俊, 滝田順子, 小川千登世, 足立壯一, 渡邊慎哉, 後藤裕明
2. 発表標題 本邦初の小児急性リンパ性白血病Patient-derived xenograft(PDX)バイオバンク樹立
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大部聡, 梅田雄嗣, 才田聡, 加藤格, 平松英文, 川口晃司, 渡邊健一郎, 柳生茂希, 家原知子, 細井創, 中畑龍俊, 上久保靖彦, 足立壯一, 平家俊男, 滝田順子
2. 発表標題 CD146は神経が種に対する治療標的となりうる
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上貴司, 加藤格, James B Wing, 田中邦昭, 才田聡, 梅田雄嗣, 平松英文, 足立壯一, 祝迫恵子, 坂口志文, 滝田順子
2. 発表標題 最新型マスマイトメトリーを用いた小児白血病の骨髄免疫環境解析
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 難治性小児がんにおける分子病態に立脚した新規克服法の開発 日本癌学会女性科学者賞受賞講演
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児・AYA腫瘍の最近の進歩 小児造血器腫瘍におけるオミックス解析
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊 健太郎, 加登 翔太, 磯部 知弥, 緒方 瑛人, 田坂 佳資, 上野 浩生, 南谷 泰仁, 田中 洋子, 白石 友一, 千葉 健一, 梅田 雄嗣, 樋渡 光輝, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田順子
2. 発表標題 小児・AYA腫瘍の最近の進歩 難治性骨肉腫における糖鎖遺伝子の役割と治療標的としての可能性
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 Symposia希少がんの診療・研究の現状と展望: 5 Genetic analysis of pediatric solid tumors小児固形腫瘍におけるゲノム解析
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上 貴司, 加藤 格, Wing James B., 田中 邦昭, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 足立 壮一, 祝迫 恵子, 坂口 志文, 滝田 順子
2. 発表標題 最新型マサイトメトリーを用いた小児白血病の骨髄免疫環境解析(英語)
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大部 聡, 梅田 雄嗣, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 川口 晃司, 渡邊 健一郎, 柳生 茂希, 家原 知子, 細井 創, 中畑 龍俊, 上久保 靖彦, 足立 壮一, 平家 俊男, 滝田 順子
2. 発表標題 CD146は神経芽腫に対する治療標的となりうる(英語)
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 緒方 瑛人, 梅田 雄嗣, 田坂 佳資, 神鳥 達哉, 三上 貴司, 大部 聡, 上野 浩生, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 川口 晃司, 渡邊 健一郎, 岩淵 英人, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 横紋筋肉腫に対するCD146標的治療の有効性(英語)
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 関口 昌央, 関 正史, 吉田 健一, 田中 水緒, 白井 了太, 宗崎 良太, 白石 友一, 樋渡 光輝, 加藤 元博, 田口 智章, 田中 祐吉, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 マルチオミックス解析による肝芽腫の治療標的NQO1、ODC1の同定
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中 邦昭, 加藤 格, 土橋 悠, 今井 順一, 三上 貴司, 伊藤 守, 中畑 龍俊, 滝田 順子, 小川 千登世, 足立 壮一, 渡辺 慎哉, 後藤 裕明
2. 発表標題 本邦初の小児急性リンパ性白血病Patient-derived xenograft(PDX)バイオバンクの樹立
3. 学会等名 第79回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kentaro Watanabe, Shota Kato, Tomoya Isobe, Masahiro Sekiguchi, Yasuo Kubota, Eito Ogata, Keisuke Tasaka, Hiroo Ueno, Yasuhito Nannya, Hiroko Tanaka, Yuichi Shiraishi, Kenichi Chiba, Katsutsugu Umeda, Mitsuteru Hiwatari, Akira Oka, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Junko Takita
2. 発表標題 The impact of a glycosylation-related gene on osteosarcoma cells and its potential as a novel therapeutic target,
3. 学会等名 The 52nd Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kubota Y, Sekiguchi M, Watanabe K, Oka A, Miyano S, Ogawa S, Takita J, Hiwatari M
2. 発表標題 KMT2A Rearranged DLBCL Refractory to Intensive Chemotherapy
3. 学会等名 The 52nd Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児造血管腫瘍・固形腫瘍におけるプレシジョン・メディシン 特別講演
3. 学会等名 第20回九州血液Webセミナー (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児・AYAがんにおけるゲノム医療の課題と新規治療標的の探索
3. 学会等名 第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 窪田 博仁、上野 浩生、平松 英文、滝田 順子
2. 発表標題 B前駆細胞性急性リンパ性白血病の統合的microRNA解析 小児・AYAがんにおけるゲノム医療の課題と新規治療標的の探索
3. 学会等名 第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高木正稔, 滝田順子, 小川千登世, 家原知子, 細井創
2. 発表標題 小児難治性固形腫瘍患者を対象としたオラパリブ経口剤の第1相臨床試験開発
3. 学会等名 第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田坂佳資, 上野浩生, 梅田雄嗣, 山崎夏維, 奥野高裕, 木村俊介, 原純一, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題 神経芽腫-褐色細胞腫混合腫瘍の統合的遺伝学的検討
3. 学会等名 第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名	福井貞弘, 梅田雄嗣, 窪田博仁, 岩井篤, 板谷喜朗, 才田聡, 加藤格, 平松英文, 足立壯一, 滝田順子
2. 発表標題	がん遺伝子パネル検査を施行したstageIV大腸癌の小児例, , 第62回日本小児血液・がん学会学術集会, 2020/11/20-22, 国内
3. 学会等名	第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2020年

1. 発表者名	加登翔太, 久保田泰央, 高杉奈緒, 日高もえ, 関口昌央, 渡邊 健太郎, 滝田順子, 樋渡光輝,
2. 発表標題	KMT2A 再構成陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の小児例, 第62回日本小児血液・がん学会学術集会, 2020/11/20-22, 国内
3. 学会等名	第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2020年

1. 発表者名	渡邊 健太郎, 加登翔太, 緒方瑛人, 田坂佳資, 上野浩生, 梅田雄嗣, 樋渡光輝, 宮野悟, 小川誠司, 滝田順子
2. 発表標題	糖鎖修飾遺伝子の骨肉腫細胞における役割と治療応用への可能性
3. 学会等名	第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2020年

1. 発表者名	眞弓あずさ, 今村俊彦, 富井敏宏, 三上貴司, 田中邦昭, 吉田秀樹, 加藤格, 川村眞智子, 滝田順子, 細井創
2. 発表標題	SPAG9-JAK2融合遺伝子を有する白血病細胞はSTAT1-MCL-1 axisを活性化する
3. 学会等名	第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2020年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 ゲノム医療：小児・AYA がんにおける実装の現状と今後の課題 （シンポジウム）
3. 学会等名 第62回日本小児血液・がん学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高木 正稔, 滝田 順子, 小川 千登世, 家原 知子, 細井 創
2. 発表標題 難治性固形腫瘍の新規治療法開発 小児難治性固形腫瘍患者を対象としたオラパリブ経口剤の第I相臨床試験の開発
3. 学会等名 第62回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 窪田 博仁, 上野 浩生, 平松 英文, 滝田 順子
2. 発表標題 血液基礎・核ダイナミクスからnon-coding RNAによる細胞制御 B前駆細胞性急性リンパ性白血病の統合的microRNA解析
3. 学会等名 第63回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児がんとゲノム医療
3. 学会等名 第20回日本癌治療学会教育アップデートコース
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 小児がんにおけるゲノム医療 特別講演，
3. 学会等名 北海道小児がんコンソーシアム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 「小児とAYA世代の腫瘍学：比較と引継ぎ」小児とAYAがんにおけるゲノム医療の課題，（シンポジウム）
3. 学会等名 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	真田 昌 (Masashi Sanada) (20529044)	独立行政法人国立病院機構（名古屋医療センター臨床研究センター）・その他部局等・高度診断研究部長 (83904)	
研究分担者	瀧本 哲也 (Tetsuya Takimoto) (40393178)	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・研究所小児がん疫学臨床研究センター・室長 (82612)	
研究分担者	樋渡 光輝 (Mitsuteru Hiwatari) (40597126)	帝京大学・医学部・講師 (32643)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大喜多 肇 (Hajime Okita) (50317260)	慶應義塾大学・医学部（信濃町）・准教授 (32612)	
研究分担者	才田 聡 (Satoshi Saida) (70638254)	京都大学・医学研究科・特定病院助教 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関